

屋久島世界自然遺産地域における気候変動適応策の検討

屋久島世界自然遺産地域における気候変動適応策の検討結果

遺産名	ストレス要因		高標高地域のヤクシマダケ群落					高層湿原				
	要因の種類	現状	予測される影響	影響の深刻度	実態	影響の可能性	防止策・低減策とその効果	予測される影響	影響の深刻度	実態	影響の可能性	防止策・低減策とその効果
屋久島	気候変動に起因する要因	【気温の上昇】 平均気温、最高／最低気温の上昇 確実性：ほぼ確実	小瀬田、尾之間で平均、最高、最低気温の全てが上昇傾向（アメダスデータ）	早期融雪による寒風害や他樹木（ヤクスギ等）の侵入による被圧のおそれ	大	高	現時点の知見では有効な対策なし 効果：－	泥炭分解や非湿原植生の侵入による希少な湿原植生衰退のおそれ	大	2010年と2015年の比較ではイモミズゴケやハリコウガイセキショウなどの植被率の減少が見られる（H28科学委員会資料、H27屋久島世界遺産地域等における森林生態系に関するモニタリング調査：九州森林管理局）	高	現時点の知見では有効な対策なし 効果：－
		【降雪の減少】 年間の降雪量及び日数の減少 可能性：不明	データなし	早期融雪による寒風害や他樹木（ヤクスギ等）の侵入による被圧のおそれ				泥炭分解や非湿原植生の侵入による希少な湿原植生衰退のおそれ				
	その他	【登山者の増加】 土砂流入の増加、土砂流入対策による路床浸食（縦浸食）	1999年から急激に増えたが、2008年前後を境に全体的に横ばいまたは減少傾向にある（H27科学委員会資料：環境省）					土砂流入量減少による路床の浸食（花之江河）、土砂堆積量増加による湛水域の減少（小花之江河）	大	2006年と2015年を比較すると花之江河では土砂堆積量は減少し、小花之江河では土砂堆積量は増加している。（H28科学委員会資料、H27屋久島世界遺産地域等における森林生態系に関するモニタリング調査：九州森林管理局）	高	・路床浸食、土砂流入の防止（植生の再生） 効果：大
	【ヤクシカの増加】 遺産地域での捕獲規制による個体数の増加	推定個体数は2009年から2014年まで増加したが2015年には減少（H28科学委員会資料：鹿児島県）	－				食害による湿原植生（ミズゴケ等）の消失	大	花之江河の湿原植生域においてシカの採餌が確認されている。	高	・個体数調整、シカ柵の設置（植生の再生） 効果：大	

注：影響の可能性と防止策・低減策の効果については、本年度業務の分析や専門委員へのヒアリングを踏まえて最終的に決定するものとする。